



「ぶっくすくすく」

平成 20 年 4 月 1 日以降に鹿島市で生まれたすべての赤ちゃんと保護者を対象に、市の事業として、「ぶっくすくすく」がスタートしました。

1. 「ぶっくすくすく」とは？

赤ちゃんの言葉と心を育むためには、暖かい抱っこの中で優しく語りかけてもらう時間が、とても大切だといわれています。

「ぶっくすくすく」は、赤ちゃんと保護者の方が、絵本を介して、このようにゆっくり心触れ合うひとときを持てるよう、お手伝いするのが目的です。

2. ポイント

- ・ 保護者の方が、ちょっとの時間でも、子どものために時間を作るということが大切です。子どもは、それにより自分の存在意義を確かめます。
- ・ 「ぶっくすくすく」は決して早期教育を勧めるものではありません。また、「絵本を読んであげなくてはいけない」とプレッシャーをかけるものでもありません。辛抱強く、あせらず、ゆっくりとお子さんのペースに合わせて、自由に絵本を楽しんでください。できれば毎日5分でもこの時間が持てればいいですね。



3. 赤ちゃん向けの絵本ってどんな本？

- ・ 「赤ちゃんの肩幅くらいの大きさで、硬い紙でできているポータブック」
これがおすすです。これくらいの本だと、赤ちゃんが自分で持ったり、めくったりしやすいです。
- ・ 「淡い色より、濃い色。かわいい絵よりも、リアルな絵」
赤ちゃんの視力はまだよくありませんので、絵柄がはっきりしている本の方が、よくわかります。またリアルな絵が実物と結びつきやすいようです。

鹿島市では、福祉事務所・保険健康課・図書館が協力してこの事業に取り組んでいます。



お問い合わせ先 鹿島市民図書館 (63-4343)

